

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**



実用新案登録願 (20)

昭和 55 年 7 月 11 日

特許庁長官殿

適

1 考案の名称  
トリツケノウチ  
スピーカ取付装置

2 考案者

住所 大阪府門真市大字門真1006番地  
松下電器産業株式会社内  
氏名 ヤマシゲ 才男

3 実用新案登録出願人

住所 大阪府門真市大字門真1006番地  
名称 (582) 松下電器産業株式会社  
代表者 山下 俊彦

4 代理人 〒 571

住所 大阪府門真市大字門真1006番地  
松下電器産業株式会社内  
氏名 (5971) 弁理士 中尾敏男

(ほか 1名)

〔連絡先 電話(東京)437-1121 特許分室〕

5 添付書類の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 委任状
- (4) 願書副本

1 通  
1 通  
1 通  
1 通  
式  
審  
査



55 098190

23679

## 1、考案の名称

スピーカ取付装置

## 2、実用新案登録請求の範囲

テレビジョン受像機本体、スピーカボックスにおのおのパイプ状の固定具を固定するとともに、略L字状をなす支持具を設け、この支持具の両端を前記各固定具におのおの挿入し、固定するとともに、前記支持具の各固定具への挿入角度を変えらることによりスピーカボックスの位置が変えられるように構成してなるスピーカ取付装置。

## 3、考案の詳細な説明

本考案は、たとえばスピーカを内蔵しないテレビジョン受像機に適用できるスピーカ取付装置に関するもので、スペース的に有利で、かつより迫力ある音声を得ることができるようにしたものである。

以下本考案をその一実施例を示す添付図面を用いて説明する。第1図に全体の構成を示す。本考案ではL字状をなす支持金具1，2を一对設け、

この支持金具<sup>2</sup>1, 2の一端をテレビジョン受像機本体3の後面に矢印方向に移動可能に取付け、一方支持金具1, 2のおのおの他端にスピーカボックス4, 5を矢印方向に移動可能に取付けている。この結果、第1図に示すように一方のスピーカボックス5で説明すると、スピーカボックス5を実績の位置はもちろん、二点鎖線で示す他の3ヶ所の異なる位置にも配置することができる。

すなわち、テレビジョン受像機本体3に対して支持金具2の一端を収納するか、引出すか、またスピーカボックス5に対して支持金具2の他端を収納するか、引出すかによって計4種類の異なる配置が可能になるわけである。もう一方のスピーカボックス4に対しては図示していないが、もちろんこのスピーカボックス4も前記スピーカボックス5と同様に設定できるものである。

第2図～第5図にその構成を詳細に示す。図示するように前記支持金具1, 2は矩形状のパイプをなし、またスピーカボックス5の背面、テレビジョン受像機本体3の背面にもおのおの矩形状の

パイプをなす固定金具 6, 7 を固定している。このとき、支持金具 1, 2 は固定金具 6, 7 の中へ自由に挿入できる大きさとしている。

この固定金具 6, 7 のおのおのテレビジョン受像機本体 3、スピーカボックス 5 への取付けは、第 6 図に示すように、一面にビス 8 の頭部より径大の開孔 9 を複数設け、この開孔 10 と対向してビス 8 のねじ切り部のみ通過させるねじ用孔 10 を設けておき、このねじ用孔 10 を設けた面をテレビジョン受像機本体 3、スピーカボックス 5 におのおの当て前記開孔 9、ねじ用孔 10 を通してビス締めを行って固定する。また、各固定金具 6, 7 の前記開孔 9 を設けた面には、ビス 11 が螺合する孔 12 を設けている。

支持金具 1, 2 の固定にあつてはテレビジョン受像機本体 3 の固定金具 6、スピーカボックス 5 の固定金具 7 内におのおの支持金具 1, 2 の一端、他端を挿入して、ビス 11 を孔 12 に螺合せしめることにより、ビス 11 にて支持金具 1, 2 を圧接して位置決めする。上記したようにこの支持金

4

具1, 2の各固定金具6, 7への挿入度合を変えることにより、第1図のようにスピーカボックス4, 5の位置を種々変えることができるわけである。

以上のように本考案によれば、スピーカボックスのテレビセット近傍での自由なレイアウトができる。また、スピーカボックスを壁面に取付けることも考えられるが、部屋の構成より取付場所に制限ができてしまい、また床にテレビセットと隣接しておくことも考えられるが、スペース上不利であるという問題がある。本考案によればこれらの欠点を一掃することができる。さらに、テレビセットを移動する場合、スピーカボックスも一体で移動させることができる等、実用上価値の極めて高いものである。

#### 4、図面の簡単な説明

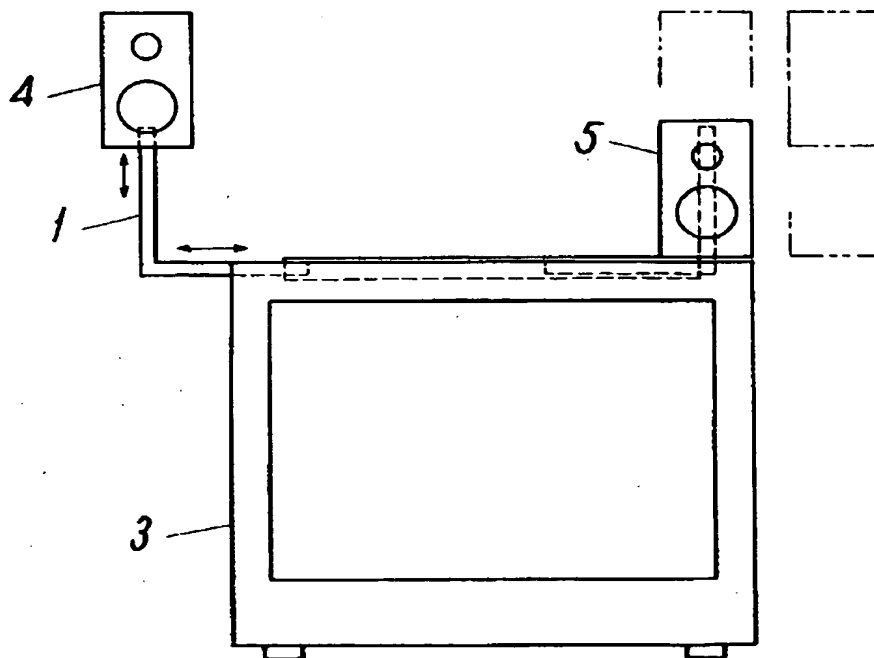
第1図は本考案の一実施例におけるスピーカ取付装置の正面図、第2図は詳細な構成を示す背面図、第3図、第4図はおのこの要部の斜視図、第5図は固定金具の取付方法を説明するための図で

ある。

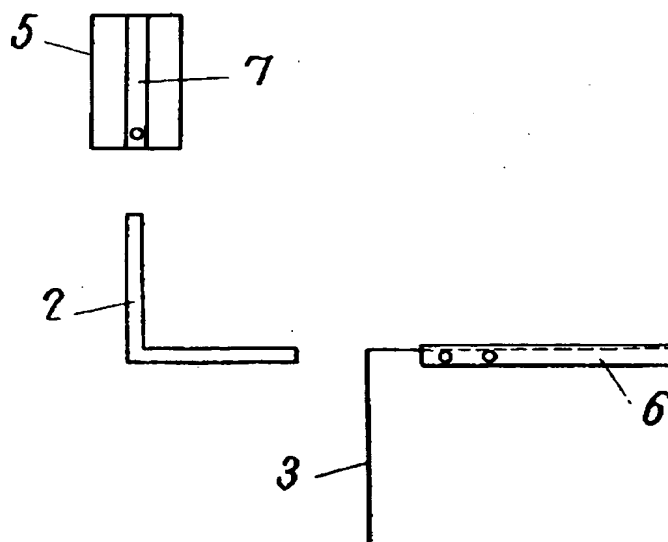
1 , 2 ……支持金具、3 ……テレビジョン受像  
機本体、4 , 5 ……スピーカボックス、6 , 7 ……  
…固定金具。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名

第 1 図



第 2 図



代理人の氏名

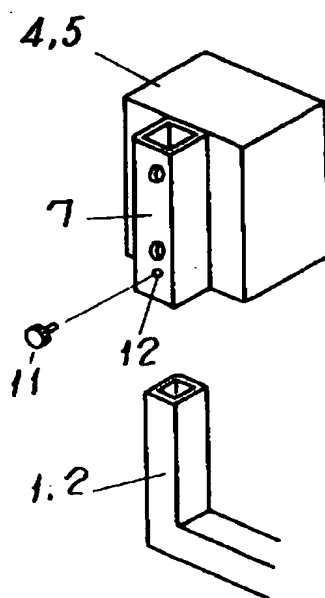
弁護士 中 尾 敏 男

ほか1名

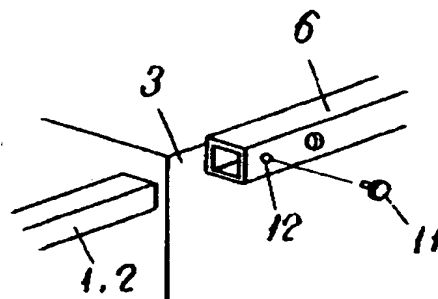
23679  $\frac{1}{2}$



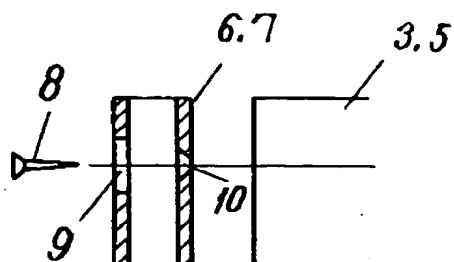
第 3 図



第 4 図



第 5 図



代理人の氏名

弁理士 中 尾 敏 男

ほか1名

23679<sup>2</sup>/<sub>2</sub>

6 前記以外の代理人

住 所 大阪府門真市大字門真1006番地  
松下電器産業株式会社内  
氏 名 (6152) 弁理士 栗 野 重 孝

